

キャリアとライフデザインの心理

科目ナンバリング EDP-105

選択 2単位

茂垣 まどか

1. 授業の概要(ねらい)

一般的に、青年期は、進路選択など人生の選択の時期である。どのような生き方をするか悩み、あるいは何も決まっていない状態に焦りを感じ、またあるいは、何もかも投げ出してしまいたくなる・・・など、自身の「アイデンティティ」に最大の興味関心をもちつつも未決定な状態である。この授業では、伝記資料を材料として、人生全体を、Eriksonの人格発達理論(アイデンティティ論)の視点を中心に考察する。

人格発達(アイデンティティ)概念を手がかりに、伝記資料にみられる歴史上の人物の考え・感情・態度・行動をより深く理解し、生涯全体を理解する。そのうえで、自分自身のキャリアおよびライフデザインについて考える。

2. 授業の到達目標

選択した歴史上の人物がどのようなアイデンティティであったか、伝記資料を用いて具体例を示すことができる(列挙法)。

選択した人物が、なぜそのようなアイデンティティ形成に至ったのか、Eriksonの人格形成論を枠組みとして用い、「きっと～だから・・・になったのだらう」という「仮説」をたてることができる。

「仮説」の根拠を、伝記資料に示された記述を列挙することができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業への参加度30%,レポート課題70%で総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

指定しない。資料を用いて授業を進める。

参考文献

E. H. Erikson(著)西平直・中島由恵(訳)『アイデンティティとライフサイクル』誠信書房

鍾幹八郎(監修)、宮下一博・大蔵得史・谷冬彦(編)『アイデンティティ研究ハンドブック』ナカニシヤ出版

榎本博明・岡田努(編著)『自己心理学1 自己心理学研究の歴史と方法』金子書房

西平直喜(著)『偉い人とはどういう人かー人生の選択のために』北大路書房

5. 準備学修の内容

歴史上の人物1名の伝記を2冊以上読み、レポートを書く必要がある。

6. その他履修上の注意事項

授業外学習で調べた結果を他の受講生と共有することで、理解を深める。そこで、積極的な取り組みが必要となる。

第1回イントロダクションに必ず出席し、この授業の進め方をよく理解したうえで受講すること。欠席した場合の不利益が大きいので注意すること。また、この授業は資料配布や課題等でLMSを利用するので、使い方を習得しておくこと。

授業計画は、進行状況に応じて調整する場合がある。

※受講希望者が多数の場合は抽選を行う。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
アイデンティティとは、伝記の選択についての解説
- 【第2回】 理論的背景(自我心理学)の解説
- 【第3回】 Eriksonの人格理論の解説1:アイデンティティ統合 対 アイデンティティ拡散
- 【第4回】 伝記研究法の紹介
- 【第5回】 Eriksonの人格理論の解説2:基本的信頼 対 不信
- 【第6回】 Eriksonの人格理論の解説3:自律性 対 恥・疑惑
- 【第7回】 Eriksonの人格理論の解説4:主導性 対 罪悪感
- 【第8回】 Eriksonの人格理論の解説5:生産性(勤勉性) 対 劣等感
- 【第9回】 Eriksonの人格理論の解説6:アイデンティティ拡散の様相の例:否定的アイデンティティ
- 【第10回】 発表:「私が選んだ人物のアイデンティティ」
- 【第11回】 青年期の親子関係と心理的離乳
- 【第12回】 青年の自我に内在する快復力
- 【第13回】 人格の成熟
- 【第14回】 発表「私が選んだ人物のアイデンティティ形成」
- 【第15回】 まとめ